

2018年5月31日

No. 2018-008

「IoS オープンプラットフォーム及び IoS-OP コンソーシアム」への参画について

ジャパン マリンユナイテッド 株式会社(以下 JMU、本社：神奈川県横浜市、社長：千葉光太郎)は、今般発足した船舶 IoT の共通基盤となる “IoS(Internet of Ships)オープンプラットフォーム” に関わる会員組織である “IoS-OP コンソーシアム” にプラチナ会員として参画します。

“IoS オープンプラットフォーム(以下 IoS-OP)” は、船舶の運航データについて、船社などデータ提供者の利益を損なわずに、関係者間で共有し、造船所、メーカー等へのデータ利用権や各種サービスへの提供を可能とするための共通基盤です。基盤として、データを収集・提供するデータセンターと、業界内で合意されたデータ流通のルールである IoS-OP 利用規約から構成されます。関係者が、データを活用したイノベーション、新規サービス開発といった競争領域に注力できるよう、データ流通に関わる部分を協調領域とする環境を整備します。

このような活動には、高い公平性、信頼性、及び独立性が不可欠であることから、会員企業による組織 “IoS-OP コンソーシアム” が設置され、IoS-OP の健全かつ恒久的な運営を確保します。IoS-OP コンソーシアムは船社、造船所、船用工業、情報通信をはじめとした 46 組織を初期会員として、発足しました。

JMU はこれまでも、自社で開発した運航支援システム Sea-Navi®を用い、自社建造船の就航後の性能監視及びそこから得られた知見の次船へのフィードバックなど、実海域性能も視野に入れた商品を提供してきました。一方で、海上通信環境や IoT など情報通信技術など、海上データの利用環境は急速に整いつつあり、JMU においては範囲を広げた就航船データを活用した新しいサービスを検討しています。

JMU では、当社事業に今回発足した IoS-OP の活用を図っていくと同時に、コンソーシアムへプラチナ会員として参画し、そのルール整備や活動促進に積極的に関わることで、IoS-OP が海事産業の発展につながるよう、その貢献に努めて参ります。

問い合わせ先：
総務部 広報グループ
TEL：045-264-7200